

## 学 会 記 事

## I. 運営委員会報告(議事のみ)

1999年7月16日に北海道旭川市トーヨーホテルにおいて開催。

- ①編集委員会による植生学会誌執筆要領改訂(案)について承認した。
- ②会計監事を1名から2名に増員することとした。
- ③1998年度総会の議題整理を行った。

## II. 編集委員会報告(議事のみ)

1999年7月16日に北海道旭川市トーヨーホテルにおいて開催し、植生学会誌執筆要領の改訂について審議した。

## III. 1999年度総会報告

1999年7月17日に北海道教育大学教育学部旭川校において1999年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

## A. 報告事項

## 1. 事務局(庶務関係)

- ①1999年7月14日現在の会員数は448名である。
- ②学術刊行物指定の申請を1999年1月に行った。
- ③学術会議第18期会員の推薦に関する学術登録団体の登録申請を1999年5月に行った。

## 2. 事務局(会計関係)

①本年度の予算執行状況について

## 3. 事務局(編集関係)

- ①1998年10月から1999年7月までの間に植生学会誌15巻2号(掲載論文数6編、頁数72頁+記事)と同16巻1号(掲載論文数6編、頁数97頁+記事)を発行した。
- ②1998年10月から1999年7月の期間の投稿論文数は12編。
- ③植生学会誌執筆要領の4の「37文字、37行」を「34文字、30行」とする。なお、この要領は1999年7月17日以降に投稿された原稿に適用する。

## B. 承認事項

1. 1998年度の収支決算(別掲1)
2. 1999年度の収支予算(別掲2)
3. 会則の改正(会計監事を1名から2名に増員すること)(別掲3)
4. 会計監事(増員分)として菅沼孝之氏を選任した。
5. 企画委員会委員の交代を行うこととし、その人選を会長に一任した。
6. 学術会議の登録団体認可後の学術会議会員候補者および推薦人の人選を運営委員会に一任した。
7. 植生学会第5回大会を2000年10月6日(金)~10月8日(日)に高知大学で開催する。

## C. その他

1. 第5回大会会場となる高知大学の石川慎吾氏より、大会企画の概要説明があり、多数の会員の参加が要請された。

## 別掲1. 植生学会1998年度収支決算

(単位:円)

収入の部		予算	決算	差異	備考
前期繰り越し		1,013,127	1,013,127	0	
会費		2,340,000	2,395,000	-55,000	
雑収入	広告料など	282,000	491,850*	-209,850	*会誌超過ページ分収入を含む
	利息	0	1,347	-1,347	
計		3,635,127	3,901,324	-266,197	
支出の部					
本誌刊行費	650,000円×2回	1,300,000	1,522,500	-222,500	
情報誌刊行費	300,000円×1回	600,000*	157,480	442,520	*1997年度分を含む
送料		300,000	236,577	63,423	
事業費	シンポジウム開催費など	100,000	0	100,000	
学会事務局経費		200,000	188,316	11,684	
編集事務局経費		200,000	100,375	99,625	
大会補助費		200,000*	100,000	100,000	*第4回大会分を含む
予備費		735,127	0	735,127	
計		3,635,127	2,305,248	1,329,879	
収支差額(繰り越し)		0	1,596,076	-1,596,076	

## 別掲2. 植生学会1999年度収支予算

(単位:円)

収入の部		1999年度	1998年度	差異	備考
前期繰り越し		1,596,076	1,013,127	582,949	
会費		2,556,000	2,340,000	216,000	
利息		1,000	0	1,000	
雑収入	広告料など	300,000	282,000	18,000	
計		4,453,076	3,635,127	817,949	
支出の部					
本誌刊行費	850,000円×2回	1,700,000	1,300,000	400,000	
情報誌刊行費	300,000円×1回	300,000	600,000*	-300,000	*1997年度分を含む
送料		200,000	300,000	-100,000	
事業費	シンポジウム開催費など	100,000	100,000	0	
学会事務局経費		300,000	200,000	100,000	
編集事務局経費		200,000	200,000	0	
大会補助費		100,000	200,000*	-100,000	*第4回大会分を含む
予備費		1,553,076	735,127	817,949	
計		4,453,076	3,635,127	817,949	

## 別掲3. 植生学会会則改正条項

旧	新
第9条 本会に次の役員をおく。 ①会長1名, ②運営委員12名, ③幹事長1名, ④幹事3名 (庶務, 会計, 編集), ⑤会計監事1名, ⑥編集委員長1名, ⑦編集委員若干名	第9条 本会に次の役員をおく。 ①会長1名, ②運営委員12名, ③幹事長1名, ④幹事3名 (庶務, 会計, 編集), ⑤会計監事2名, ⑥編集委員長1名, ⑦編集委員若干名

## IV. 植生学会第4回大会報告

植生学会第4回大会が、1999年7月16日から18日にかけて北海道教育大学旭川校において開催された(下記日程)。一般講演は42題の発表が行われた。参加者は予約申込者123名, 当日申込者29名の計152名であった。

7月16日: 編集委員会, 運営委員会

7月17日: 一般講演, 総会, エクスカーション案内, 懇親会

7月18日: エクスカーション(大雪山)

一般講演の演題は以下の通りであった。

- A01. 沖津進(千葉大・園芸), ロシア北方域の植生配列からみた大雪山上部の植生分布
- A02. 渡邊定元(立正大・地球環境科学), 北海道高山植物相と立地条件
- A03. 鈴木伸一(財・国際生態学センター)・片野光一・吉井宏始・大森威宏・須藤志成幸(群馬県自然環境調査研究会)利根川源流域の多雪地植生について
- A04. 大野啓一(横浜国大・環境研), 北海道の冷温帯林に関する一考察
- A05. 福嶋司(東京農工大・農)・西尾孝佳(宇都宮大・雑草科学)・楊良(雲南環境観測センター), 中国貴州省, 梵浄山のブナ属森林の組成と構造
- A06. 梶幹男・北島琢郎(東大・農・北海道演習林), ブナ北限問題の解明に向けての二つの新仮説
- A07. 田内裕之(森林総研・北海道), 森林遷移を決める個体の成長履歴 - 洞爺丸台風後の継続調査から -
- A08. 上條隆志(筑波大・農林)・北山兼弘(森林総研)・菅原綾(筑波大・生物資源), 一次遷移における森林・土壌系のダイナミズム - 伊豆諸島三宅島を例に -
- A09. 服部保(姫路工業大・自然・環境科学研究所), タブ型照葉樹林の群落分類と各群落の成立要因
- A10. 石田弘明・服部保(姫路工業大・自然環境科学研究所), 孤立照葉樹林の種数-面積関係の地域間比較
- A11. 山下寿之(富山県中央植物園), 分布北限のオオクバネガシを含むウラジロガシ林の群落構造
- A12. 三浦修(岩手大・教育)・大竹房子(宮城県林政部), 分布北限域における常緑広葉樹の実生・稚樹の分布に関わる被覆樹冠層の効果
- A13. 田村和也・服部保(姫路工業大・自然環境科学研究所), 海岸性カシワ林, ニレ科林の地理的分布と冬季季節風
- A14. 竹原明秀(岩手大・人文社会)・平吹喜彦(宮城教育大)・原正利・大場達之(千葉県立中央博)・C. Barbosa(環境省自然保護局)・李貴林(岩手大・人文社会), 南米コロンビア熱帯季節林の構造と動態 - 6年間の変化 -
- B01. 矢ヶ崎朋樹(財・国際生態学センター), 比企郡滑川町における土地改変の履歴と植物群落の分布・種組成について
- B02. 田中徳久(神奈川県立生命の星・地球博物館), 川崎市南部の植物群落

- B03. 石原和代・星野義延(東京農工大・農), 水田地域における土地利用と植物の種多様性との関係
- B04. 迫田昌宏(株・中外テクノス)・武田義明(神戸大・発達科学), 神戸市域の圃場未整備地の水田畦畔に成立するススキ・チガヤ群落の特性
- B05. J. Zhou, K. Naito & Y. Takahashi (Chugoku National Agricultural Station), STUDY ON SUCCESSION OF ABANDONED GRAZED-GRASSLAND VEGETATION IN UPLANDS OF SOUTHWESTERN HONSHU, JAPAN
- B06. 山戸美智子(神戸大・院・自然科学)・服部保(姫路工業大・自然環境科学研究所), 六甲山に残存するススキ草原について
- B07. 今西朋子(株・都市緑地研究所)・野壽玲児・三原加帆里(神戸女学院大・人間科学), 東播磨の禿山植生
- B08. 津田智(岐阜大・流環研), 山火事跡地の植生 再生初期の群落の特徴
- B09. 林一六(筑波大・菅平実験センター), 植物群落の種類組成について
- B10. 八木正徳(都立飛鳥高校)・星野義延・久保田七海(東京農工大・農), 伐採間隔が長期化したコナラ二次林で萌芽更新は可能か?
- B11. 島田和則・田中信行・丸島宏道・八木橋勉(森林総研), 茨城県中央部における森林植生の植物社会学的研究 - 特に落葉広葉樹林の組成的検討と本地域の特性 -
- B12. 本郷真(神戸大・院・総合人間科学)・武田義明(神戸大・発達科学)・服部保・小館誓治(姫路工業大・自然環境科学研究所), 六甲山系におけるオオバヤシャブシの群落学的研究
- B13. 岸田章一・豊原源太郎・出口博則(広島大・理・生物科学), アカマツ二次林の遷移にみられる地域差
- B14. 豊原源太郎・岸田章一・大谷心也(広島大・理・生物科学), 広島県におけるアカマツ林の群落分類上の問題点について
- C01. 久保満佐子・島野光司・大野啓一(横浜国大・環境研)・崎尾均(埼玉県林試), 溪畔林における高木性樹木の生育立地と種組成の対応
- C02. 並川寛司・奥山妙子(北教大・札幌), 石狩低地帯における湿性林の植生構造
- C03. 桑原佳子(社・大分野生生物研究センター), 大分川河川敷のヤナギ林の動態について
- C04. 奥田重俊(横浜国大・環境研), 北海道の河辺林と主な草本植生について
- C05. 星野義延・中山昭男(東京農工大・農), 多摩川河川敷におけるハリエンジュの種子散布と埋土種子
- C06. 馬場明子・石川慎吾・三宅尚(高知大・理・自然環境科学), 攪乱地に生育するシソ科一年生草本の生態的特性
- C07. 松間充(横浜国大・環境研)・金子是久(財・日本生態系協会)・奥田重俊(横浜国大・環境研), 都市河川におけるオオカナダモの生育状況

- C 0 8. 関岡裕明・下田路子(東和科学・株)・中本学(大阪ガス・株)・森本幸裕(大阪府立大・農). 営農作業による休耕田植生管理の試み(第4報)
- C 0 9. 浜端悦治(琵琶湖研究所). 中国雲南省大理州洱海(Erhai)における沈水植物群落の分布
- C 1 0. 檜村利道(福島大). 福島県赤井谷地の保護と活用の計画
- C 1 1. 池田浩明(農環研)・松井哲哉(オタゴ大). ニュージーランド南島における湿性植生の表面温度特性
- C 1 2. 菊池亜希良(広島大・院・国際協力). 湿原の水文地形と植生—湧水湿地を中心として—
- C 1 3. 富士田裕子(北大・農・植物園). 北海道利尻島内の湿原植生について
- C 1 4. 佐藤雅俊(帯畜大・畜産環境)・高橋勝・橘ヒサ子(北教大・旭川). 雨竜沼湿原における踏みつけ荒廢地の微地形と植生

#### V. 植生学会誌の学術刊行物指定について

郵政省より1999年7月29日付けで植生学会誌が学術刊行物として指定された旨の連絡があり、16巻第2号(本号)から学術刊行物として郵送できることになった。

#### VI. 学術会議第18期会員の推薦に関する学術登録団体への登録について

学術会議会員推薦管理会より1999年9月14日付けで植生学会が学術研究団体に登録された旨の通知があった。

#### VII. 企画委員会委員の委嘱について

会長より次の6氏に企画委員会委員を委嘱した(任期1999年10月12日から2002年総会当日まで)。奥田重俊(委員長), 村上雄秀, 吉川正人, 服部保, 神崎護, 野寄玲児(順不同)。

